

消えた町名、復活させたい町名

長谷川 修

都心に出て待ち合わせに時間がある時や、用件が早く終わりあてもなく歩いている時、思いがけず旧町名由来の案内板に出会うことがある。特に江戸から続く「旧東京市一五区」の案内板はお気に入り、大名屋敷、幕府の職制、職人、商人、人名、風土等にゆかりの地名が多く、町の歴史が実感できて楽しい。

今から六〇年前の一九六二年に「住居表示法」が制定された。それまでの道路や地番に基づく表記は合理性に欠け郵便の配達に支障をきたしていると、大きい地域(面)に纏め、〇町〇丁目〇番地〇番を順に割り振った。このために消えた町名には、歴史を秘めた地名、佳名、めでたい地名等多彩であり、残してほしかったものが多い。以下、思いつくままに挙げると、

(千代田区) 連雀町、佐久間町、末広町、塗師町、明神下同朋町、代官町
(中央区) 木挽町、芳町、矢ノ倉町、霊岸島、宝町、越前堀町、弓町
(文京区) 菊坂町、妻恋町、真砂町、竹早町、春木町、本富士町、同心町
(台東区) 永住町、猿若町、初音町、龍泉寺町、黒門町、御徒町、花園町
(港区) 市兵衛町、霞町、鳥居坂町、檜町、一木町、笄町、汐留、田町
等がある。

このうちの一部は、駅(御徒町、宝町)や首都高のジャンクション(谷町、高樹町)、神社、坂道、警察署、小学校等の名前として残ったものもあるが、問題は完全に消えた地名だ。明治時代の小説、芝居、落語や浮世絵に表われる地名の中には、現在の地図には出ておらず、古地図や地名辞典から想像するしかないものも多い。文化・伝統の厚みや豊かさの観点に立てば、薄くて貧しい方向に向かっているだろうか。

参考になるのは、金沢市の取り組みである。金沢市では、今世紀初めに三〇年振りに主計町を復活させたのを皮切りに、飛梅町、六枚町等二〇近くの旧町名を甦らせた。市も一六年に条例を制定し旧町名復活運動を支援している。

昨今のIT技術を活用すれば、伝統的な旧町名と合理的な現町名の複数併存は可能だと思う。